



## 北海道情報大学 宇宙と情報フェア2010



発行：北海道情報大学  
〒069-8585  
江別市西野幌59-2  
TEL 011-385-4411  
FAX 011-384-0134

- |   |  |
|---|--|
| <p><b>目次</b></p> <p>02 ■ 情報メディア学部長に就任して</p> <p>03 ■ 新任教員あいさつ</p> <p>04 ■ 名誉教授称号授与式</p> <p>05 ■ E-Learn2010でFD活動を発表</p> <p>06 ■ 宇宙と情報フェア2010</p> <p>10 ■ 蒼天祭</p> <p>14 ■ 消防訓練を実施</p> <p>15 ■ Faculty Development</p> <p>16 ■ 留学生宿泊研修</p> | <p>18 ■ Library News</p> <p>20 ■ 大学院生の学会発表について</p> <p>21 ■ 学内報50号の歩み</p> <p>22 ■ 保護者との懇談会を実施</p> <p>23 ■ ゼミ紹介</p> <p>24 ■ ビギナーズセミナーで就職体験談</p> <p>26 ■ クラブ紹介</p> <p>28 ■ 大学主要行事等／編集後記</p> |
|---|--|

# 情報メディア学部長に就任して

情報メディア学部 学部長 山北 隆典



本年8月から情報メディア学部長に就任させていただくことになりました。本学には情報メディア学部開設(平成13年)の際に赴任いたしましたので、ちょうど本学での十年目を迎えたことになりました。こうした節目の時期に大役を仰せつかったことに身の引き締まる思いであると同時に、戸惑いを隠せない毎日です。

ところで、学部長就任後まもなく、学長先生から学部の中期目標、中期計画を策定せよとの指示を受けました。中期目標の設定は、教育システムの在り方、教育の実施体制などいくつかの観点からなされるわけですが、最初に思い浮かんだことは教育カリキュラムに関するものでした。すでにFD活動の一環として、その検討を重ねてきた経緯もありました。温故知新という言葉があります。ここで情報メディア学部の十年をカリキュラムの変遷で振り返り、今後のカリキュラムの改善に向けた思いを綴り、今後の抱負に代えさせていただきたいと思えます。

情報メディア学部は、平成13年の開設時から一学部一学科で今日に至っています。当初は「表現メディア」「伝送メディア」「応用メディア」という三つの履修モデルを用意し、学生諸君の目指す進路や希望に応じた実践的なカリキュラムのもと、教育を開始しました。平成17年には、「メディア表現コース」「メディア

技術コース」の二コースへ再編しています。多様なメディアを駆使し情報を自在に発信できる「情報のジェネラリスト」育成に軸足を置きつつ、情報社会の高度化・複雑化を踏まえ、二つの視点から専門的に学習をすすめられるように配慮した変更でした。その後、平成20年には専攻制を導入し、これまでの二コースをそれぞれ「メディアデザイン専攻」「メディアテクノロジー専攻」とし、明確にスペシャリスト育成へ軸足を移すことになりました。翌年には各々の専攻内に履修モデルとしてのコースを設定し、若干のコース内容の整理を行い今日に至っています。

このように振り返ってみますと、情報メディア学部の守備範囲である情報技術分野のこの十年間は、その様相が猛烈な勢いで進展した時期であり、積極的なカリキュラムの見直しが必要であったといえます。その中であって、情報のジェネラリスト指向からスペシャリスト指向へと転換してきたことは大きな変革でしょう。専攻制を導入し、それぞれにコース設定することで学生諸君の学びの道筋を「見える化」したことは、広範囲で複雑に絡み合う情報技術分野の中で学ぶべきものを見極めるために有効であったと評価しています。しかし、学生諸君の多様性にも同時に応えようとするあまり、各教員の担当科目数、担当コマ数の増大を

招き、教員に大きな負担を強いる副作用を招いていると認識しています。

一方、情報メディア学部は一学科です。一方、学生諸君のゼミナールへの所属に関して、専攻に関わらず、学科で開講されているゼミナールのいずれに所属することも妨げていません。クリエイティブ指向の学生、エンジニア指向の学生が互いに認め合い、刺激し合い、融合していく場を通じた教育を行おうという方針は情報メディア学部創設以来変わっていません。実社会にも見られるように、個々の学生が優れている能力を互いに発揮し合せて、プロジェクトとして研究や作品作りを行っていく経験も大切であるという共通認識によるものです。

これからは中期目標・計画の検討に沿って、新たな時代に適合したカリキュラムの模索を続けることとなりますが、「変える」ところ、「残す」ところを見極めて進めたいというのが私の思いです。

さて、最後になりましたが、カリキュラム変更にとどまらず、今後も様々な課題を乗り越えていかなければならないと覚悟しています。しかしながら、基本的な姿勢は同様で、「変える」ところ、「残す」ところのバランス感覚を意識して取り組んでいきたいと考えています。皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。

# 新任のごあいさつ

医療情報学科 教授 佐藤 浩樹



本年9月1日付けで経営情報学部医療情報学科に着任しました佐藤浩樹(さとうひろき)と申します。本学とのつながりは本年4月にさかのぼり、非常勤講師として臨床医学Ⅰを担当させて頂きました。講義初日、広く清潔なキャンパス、芝生の美しさ、静寂な雰囲気、都市の雑踏から解放され非常に心地よい気分を味わったことは今でもしっかりと記憶に残っております。広大な森に隣接した自然豊かな環境のもと、教育施設、設備も充実し、教育、研究、地域貢献に実績のある本学で今後勤務できることを嬉しく思い、非力ながら自分なりの貢献ができればと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

着任にあたって、私の簡単な略歴、研究内容、今後の抱負についてお話ししたいと思います。

私は昭和63年、北海道大学医学部を卒業し、同大学医学部循環病態内科学講座(心臓および血管疾患を扱う内科)に入局いたしました(一般社会でいうと就職先を決めたことと同義です)。入局後、同講座の大学院に進学し、毎日試験管をふり遣伝子と格闘する基礎医学に没頭し「肥大型心筋症の原因遺伝子に関する研究」の内容で平成4年に医学博士を取得し大学院を卒業いたしました。その後、札幌市立病院、釧

路労災病院、札幌厚生病院などの道内基幹病院での循環器内科診療に携わり、救急疾患も含め多くの患者の治療にあたってまいりました。特に釧路労災病院では循環器内科の責任者として勤務いたしました。病院経営、コメディカル教育にも携わり、今となっては大変貴重な経験を積むことができた実感しております。毎日ベルトコンベアのように継続する終わりの見えない診療の如く継続する終わりの見えない診療業務を昼夜を問わず懸命に行い、自身の医療技術は確実に向上している実感はありましたが、じつくり腰をすえて物を考える暇もなく、普段の診療において湧き上がってくる疑問を解決することもままならない自分に不満を持つようになり、はたして今後もこのままの生活で良いのかと自問自答する場面が多くなり、再び研究に戻り社会的貢献ができないかと考えるようになってまいりました。もともと学生時代より統計学が好きだったこと、また医学分野においても医療情報を駆使したEBM(evidence based medicine)をもとに診療治療を行う時代に舵を切ってきた時代の流れもあり、臨床疫学に興味を覚え、北海道大学医学部循環器内科講座客員研究員として再び研究生活を開始いたしました。北大医学部公衆衛生学講座にも客員研究員として二年間学内留学し医療統計学をみっちり学びました。こういった経緯より、現在の私の研究分野は臨床疫学の中でもコホート研究をメインとしおり、現在も一万人以上の対象者をベースとした前向き研究を二つ推進している段階です。現在の研究は医師ばかりではなくコメディカルの方にも研究の支援を受けており、題材は意外と抱負にあるため卒論のテーマになることも十分可能で、興味のある学生がおりましたらぜひ私に連絡して下さい。

医療業界は以前と比較してさらなる世間からの厳しい目が注がれており、同時に医療に携わる人的資源も多いたとは言えない現状です。そういった背景より質の高い医療サービスを提供するためには医師とコメディカルの密なる連携が欠かせません。情報大学の今後の抱負ですが、臨床医の立場から診療情報管理士や医療情報技師の資格取得のための有意義な知識提供を行っていくのはもちろんですが、将来医療業界で働く上で不可欠な主体的な思考力、判断力、行動力を身につけることを目的とした社会的教育の提供も行っていかうと考えております。

最後になりましたが、臨床疫学者の一人として情報大の発展に寄与していく所存でございますので、皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 名誉教授称号授与式行う



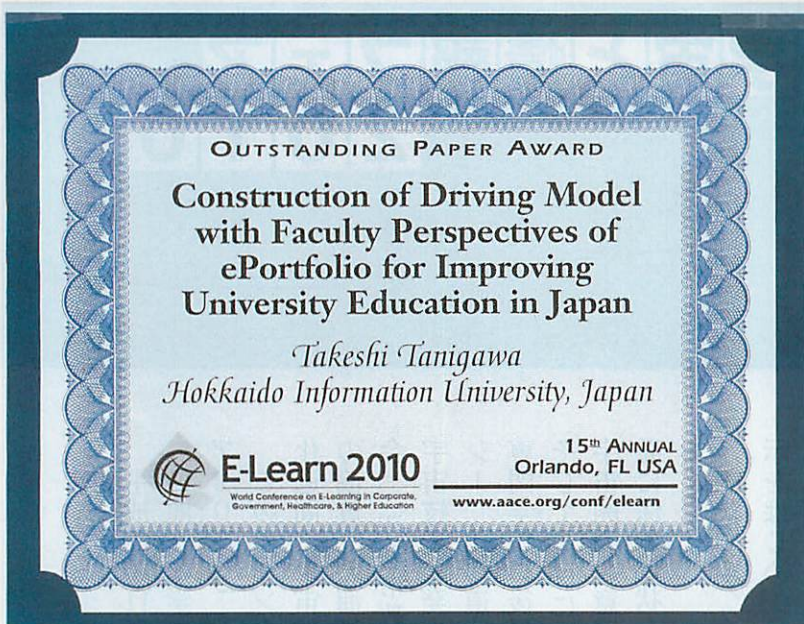
平成22年7月29日(木)、北海道情報大学名誉教授称号授与規程に基づき、名誉教授の称号授与式が、学長室において行われました。

長谷川学長、富士副学長、林経営情報学部部長、近藤事務局  
長立ち会いのもと、長谷川学長から齋藤直機氏(元先端経営学科  
教授)、坂上修二氏(元情報メディア学科教授)、前田隆氏(元  
情報メディア学科教授)へ称号が授与され、最後に長谷川学長  
より、長年にわたって本学に多大なる御尽力されたことへの  
感謝の辞がのべられました。

(総務課)

## E-Learn2010で 本学のFD活動を発表

システム情報学科 教授 谷川 健



本学の教育GPプロジェクト「ICTによる自律的FD推進モデルの構築—ファカルティポートフォリオシステムの開発、導入による教育の自律機能の実現—」も今年度で最終

年度を迎えます。このプロジェクトの中心である「自律的FD推進モデル」を具現化したFD活動支援システムであるCANVAS(Creative Activity for Nurturing Value-Added Students (by using a Faculty Development support system))は、今年度から全教員による試用を開始しています。このCANVASを開発した経緯およびシステムの概要を論文としてまとめてE-Learn2010に投稿したところ受理されました。受理された論文を発表するために、谷川とメディア教育センターの前田真人氏が2010年10月18日(月)～22日(金)に米国フロリダ州オーランドで開催されたE-Learn2010に参加してきました。

E-Learn(World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education)とは、AAACE(Association for the Advancement of Computing in Education)が主催するeラーニング関連の国際学会で、今年のE-Learn2010は、デイズニールワールドがあるフロリダ州オーランドのリゾートホテル「Wyndham Orland Resort」で開催されました。

私たち(Takeshi Tanigawa, Takanori Yamakita, Toshifumi Fujii, Makoto Maeda, Takashi Fuji)は、「Construction of Driving Model with Faculty Perspectives of ePortfolio for Improving University Education in Japan」というタイトルの論文を投稿しました。この論文は、日本におけるFD活動の現状、システム駆動によるFD活動の必要性、ファカルティポートフォリオを中心とした自律的FD推進モデル、FD活動支援システムCANVASの概要と機能評価などについてまとめたものです。この論文は、投稿数693から採択された444本に選ばれて発表する機会を得ました。また、プログラム委員会の審議の結果、四本の「the Outstanding Papers」と一つに選出されました。

E-Learn2010で発表の機会を得たのは、教育GPシステム開発会議のみなさまと教育GPへの取組みに協力していただいている教職員のみなさまのおかげであり、みなさまに感謝の意を表します。

お帰りなさい、はやぶさ  
本物のH-IIロケットエンジンがやってくる!

# 宇宙と情報フェア2010

SPACE AND INFORMATION FAIR

2010  
11/2・3  
10:00-17:15 (2日) 10:00-16:30 (3日)

主会場  
北海道情報大学

入場無料  
先着2,000名様に  
H-IIロケットエンジン  
の体験型展示  
がプレゼント  
されます!

**特別講演**

2日  
「宇宙への思いと期待」  
特別講演 佐藤 誠  
「宇宙開発における日本人の活躍」  
特別講演 藤原 洋

3日  
「はやぶさ、宇宙へ」  
特別講演 佐藤 誠  
「宇宙の広さ(11月の空)」  
特別講演 佐藤 誠  
「宇宙への思い」  
特別講演 佐藤 誠

**特別展示・体験**

1. はやぶさの模型  
2. はやぶさの模型  
3. はやぶさの模型  
4. はやぶさの模型  
5. はやぶさの模型  
6. はやぶさの模型  
7. はやぶさの模型  
8. はやぶさの模型  
9. はやぶさの模型  
10. はやぶさの模型

09-336-4412

主催 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 協賛 北海道 北海道教育委員会 江別市 江別市教育委員会 江別市工業会  
宇宙技術開発株式会社 株式会社エスシー 北海道情報技術研究所 北海道情報専門学校

ポスター

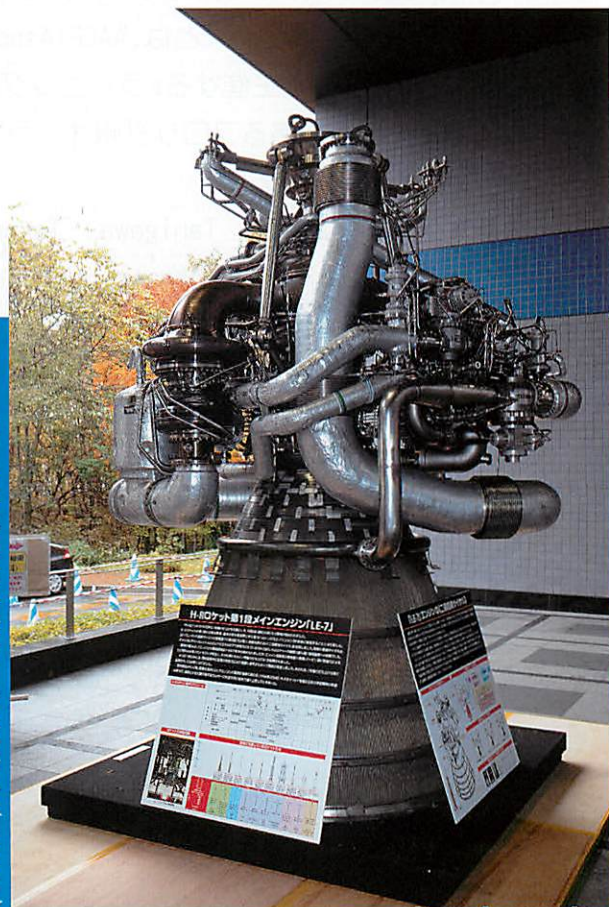
## 宇宙と情報フェア2010

平成22年11月2日(火)〜3日(水・祝)の二日間、本学主催による「宇宙と情報フェア2010」を開催しました。

このイベントは、文部科学省の教育・文化週間に宇宙航空研究開発機構(JAXA)の協賛、北海道、江別市、北海道教育委員会、江別市教育委員会、江別商工会議所、宇宙技術開発株式会社、株式会社エスシー、北海道情報技術研究所、北海道情報専門学校の後援を得て、児童、生徒、学生そして市民に宇宙の素晴らしさ、楽しさ、宇宙開発の意義を広く情報発信し、宇宙開発に係る現状を啓蒙、普及することを目的としたものです。

H-IIロケット第一段メインエンジン(LE-7)等の実物展示をはじめ、はやぶさ二分の一模型等の多数の模型展示、さらには、特別講演会、船外・船内活動用の宇宙服(レプリカ)を実際に着用しての写真撮影、モデルロケット等の工作体験など、数多くの会場からなるこの「宇宙と情報フェア2010」は、北海道では最大級規模での開催となり、TVでの放映、新聞記事の掲載と話題性のあるニュースとしてマスコミ関係にも大きく取り上げられました。

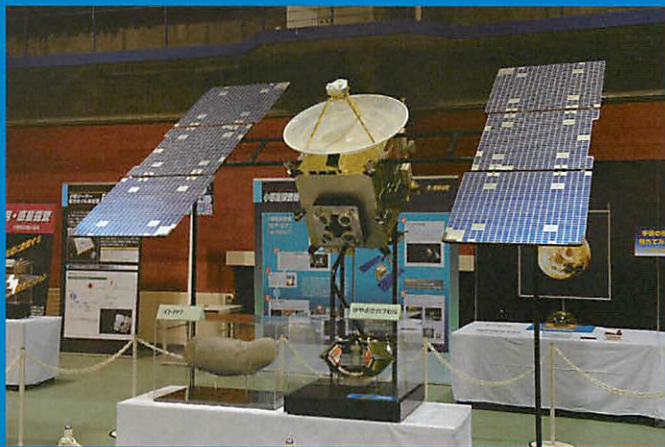
また、11月2日(火)には、午前と午後に分けて、本学の隣にある江別市立野幌中学校の一年生約二百名が訪れ、展示物の見学や工作(ペーパークラフト又はフィルムケースロケットのいずれか)を体験しました。中学校では、「宇宙」に関する授業が行われていないということもあり、どの生徒も真剣に見聞きしていました。



H-IIロケット第一段メインエンジン(LE-7)



野幌中学校生の見学風景



「はやぶさカプセル」原寸大模型

● 展示物

展示のメイン会場となった体育館では、ロケットゾーン、宇宙ステーションゾーン、人工衛星ゾーン、宇宙科学ゾーンの四つのテーマに分類するとともに各解説パネル、及び体験型も設けた展示を行いました。また、来場者の方々は、会場入口に展示した宇宙から見た江別市・札幌市周辺写真を見て、「あったー」と興奮しながら、通っている学校や自宅などを探して当てていました。

【ロケットゾーン】

H-II Aロケット四台、H-II Bロケット、

H TV (宇宙ステーション補給機)、

日本のロケット開発の流れ、

アイソグリッド切り出し(実物)、

フェアリング切り出し(実物)

【宇宙ステーションゾーン】

国際宇宙ステーション、スペースシャトル、

きぼう、ソユーズ宇宙船・ロケット

【人工衛星ゾーン】

いぶき、きずな、みちびき、だいち、

きく7号、きく8号、あかつき

【宇宙科学ゾーン】

はやぶさ、イトカワ、はやぶさカプセル、

かぐや、ひので、イカロス

【体験型】

宇宙ローバー遠隔操作、宇宙パズルゲーム、

ジャイロ実験、手作り天体望遠鏡、慣性電車、

宇宙の砂(月・火星)



体験型：宇宙ローバー遠隔操作



H-II Aロケット1/15模型、H-II Bロケット1/20模型

特別講演会場の模様



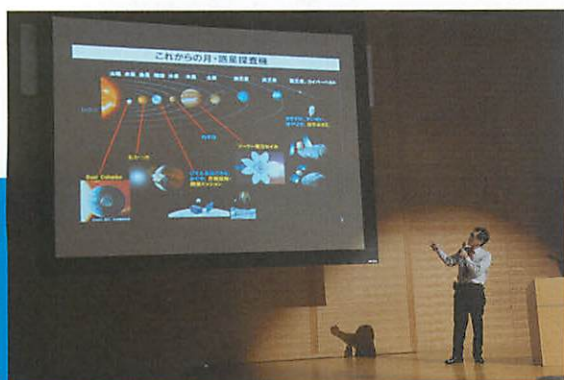
●特別講演

11月2日(火)

は社会人・学生向けを対象として、宇宙開発の動向や宇宙開発におけるITの活用事例などの内容で行われ、本学の学生に対しては振替授業とするとともに、P I N E N E T II により全国にあるeDCグループの各専門学校へも生中継しました。11月3日(水)は小中学校生向けを対象として、宇宙に関することを分かりやすく、そして面白い内容で行われ、子供たちの歓声や笑い声が終始絶えることなく大変和やかな雰囲気で行われました。

日 時	テーマ	講演者
11/2(火)	14:55~15:55	宇宙への取り組み JAXA執行役 長谷川 義幸 様
	16:15~17:15	宇宙開発における新しいITの活用 JAXA情報・計算工学センター長 嶋 英志 様
11/3(水)	13:30~14:30	めざそう、宇宙へ!! (財)日本宇宙フォーラム主任調査員 渡辺 勝巳 様
	14:40~15:20	お帰りなさい、はやぶさ!! JAXA執行役 長谷川 義幸 様
	15:30~16:30	宇宙の不思議 サイエンスライター・サイエンスコーディネーター 山田 ふしぎ 様

特別講演(長谷川様)



特別講演(嶋様)



特別講演(渡辺様)



特別講演(山田様)







モデルロケットの試射



● 工作体験

宇宙と科学をテーマにした比較的簡単にできる、モデルロケット(先着二十名)をはじめ、ペーパークラフト及びフィルムケースロケット(いずれも先着四百名)を作成するもので、家族連れに大変人気がありました。

火薬を使用するモデルロケットは、打ち上げまで行う予定でありましたが、残念ながら当日は雨天のため試射のみを行い、打ち上げを11月6日(土)午前10時に延期しました。

このほかにも、はやぶさのパネル展示や本学に設置してあるロボットアームによるオセロの実演、LEGOでの遊び場など、参加できるイベントも数多くあり、子供たちにもたいへん人気がありました。

また、来場者先着二千名にはロケット型ボールペンを、スタンプリーパー完走者先着千五百名には宇宙食を、宇宙服(レプリカ)を着用しての写真撮影ではカンバッチ又は写真シールをプレゼントしました。

開催日の二日間とも天候には恵まれませんでしたが、総勢三千二百四十一名の来場があり、展示物や工作・体験型の来場者の満足度は非常に高く、来年度以降の開催を期待する声もあり、たいへん賑わいのあるイベントとなりました。

(総務課)



スタンプリーパー台紙



宇宙食



LEGOの遊び場



ロボットアームの実演

作成したフィルムケースロケットの打ち上げ



# 第22回 蒼天祭

2010.10.9~10



## 大学祭を終えて

大学祭実行委員会 委員長

齊藤 昌幸

今年も第二十二回北海道情報大学蒼天祭を無事事故も無く終えることができました。

二日目は残念ながら雨が降ってしまい、朝から大幅な企画変更を余儀なくされ、不安なスタートとなりましたが、いざ始まってみればオープンキャンパスに参加していただいた高校生、YOSAKOI大乱舞に出演していただいた方々などにより、雨を感じさせないほど活気ある蒼天祭となりました。また、今年度は協賛していただいた企業様が例年に比べて大変多く、企画一つ一つに力を入れることができ、全体のクオリティも高く、規模も例年より一回り大きなものことができました。また、昨年度はテーマというものが薄く、統一感が無いという反省が挙がっていたことを踏まえ、今年度は一旦過去を振り返るのもいいのではないかと話し合い、今年度は和をイメージした方向性とし、蒼天祭全体の装飾やパンフ、ポスターに関しても少し古風なデザインで統一したことににより、全体的に統一感が出ており、見やすいものに近付けたのではないかと思います。

最後に、今年度の実行委員会の活動にご協力して頂いた皆様、協賛して頂いた企業の皆様、ご来場して頂いた皆様、誠にありがとうございました。ございました。

来年度の蒼天祭の活動にもご理解とご協力を頂きますようよろしくお願い致します。







第22回 蒼天祭





# 自衛消防訓練を実施



防火管理者 中島 安敬



平成22年9月21日(火)、教職員及び学生による総合的な自衛消防訓練を実施しました。この訓練は、火災などの災害に対して災害の発生を想定し、消防計画に基づき通報、消火及び避難等を速やかに且つ安全に行い、被害を最小限に阻止し、日常における防火意識の向上を図ることを目的に行われました。

消防訓練は、本学校舎棟一階喫煙室近から出火したことを想定し、まず、午後1時10分頃に火災報知器が発報し、続いて火災警報アラームが鳴動すると本学自衛消防隊の通報連絡班が火災現場へ急行し、また、記録班は自衛消防訓練状況の記録を開始しました。通報連絡班による火災場所の確認後非常放送が行われると、消火班は火災現場に急行し、粉末消火器や屋内消火栓を利用した初期消火(模擬消火)、また、講義中の教員は教室の窓を閉め、学生の事前点呼など避難準備を行い、避難誘導班の到着を待ちました。

午後1時12分頃には、通報連絡班が江別市消防署に119番通報で火災発生を連絡し、また、非常放送(第一報)を聞いて学長室に集合した消防隊長(学長)、副隊長及び各班長による緊急協議で延焼の危険が高いと判断し、自衛消防隊本部の設置と全員の避難が決定されました。

直ちに、搬

出班により机等が所定の場所に搬出され、自衛消防隊本部が設置されました。

午後1時15分頃には、通報連絡班による非常放送(第二報)により、学生、教職員及び来学者への校舎外への避難指示が出され、以降、避難誘導班による避難誘導、救護班による負傷者の救護、搬出班による重要書類の搬出及び機器操作班による防火扉の操作などの諸活動を行いました。

避難場所において避難者全員の点呼確認に時間を要し、午後1時50分頃に終了し、その後は、江別市消防署員ご指導の下に教職員及び学生の代表による消火器を操作した消火訓練と消火班の職員による消火栓による放水訓練を行いました。

訓練終了後、江別市消防署の責任者から、「教職員及び学生とも訓練という意識があるため、真剣に取り組んでいなかった」と厳しい講評がありました。

最後に、消防隊長(学長)から訓示があり、午後2時20分過ぎに無事終了しました。

なお、本学は江別市で災害が発生した場合の野幌鉄南地区住民の収容避難場所に指定されていることから、教職員及び学生の災害に対する危機管理意識を高揚させるためにも、毎年継続して自衛消防訓練を実施していく所存です。



# 北海道情報大学 教育GP国際FDエキスパートフォーラム2010

WG5 leader Simon Thollar

9月17日(金)に「北海道情報大学 教育GP国際FDエキスパートフォーラム2010」というフォーラムを行いました。米国のニューヨーク州にあるCanisius Collegeの優秀なファカルティ・デベロッパによる講演とワークショップを行いました。

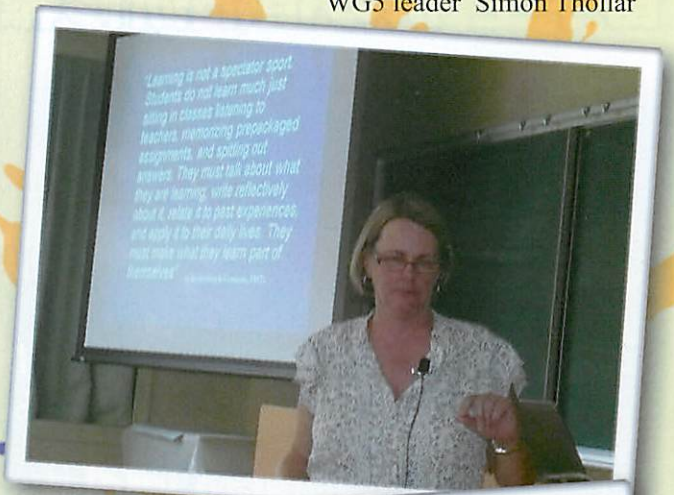
1日を通して行われたフォーラムは、2つの講演を行う午前の部とワークショップを行う午後の部に分かれました。講演、ワークショップとも多くの参加者を得て、価値があり、情報に富み、また楽しいものにもなりました。午前、午後とも、谷さつき先生に通訳をお願いしました。谷先生のすばらしい通訳は、参加者の内容の理解、インタラクションの活性化に多いに貢献し、フォーラムの成功要因の一つとなりました。

最初の講演は、「ファカルティ・ディベロップメント：北米高等教育における動向」と題して行われました。講演は、「高等教育機関を動かす原動力となるのは教員集団である」という前提に基づいて行われました。まずカワード博士は、講演の中で、教員を成長させる方法、また、配慮する点について確認しました。これには、教授スキル、教育方法的および組織としての発展、FD方法の多様なタイプ・プログラム・モデルが取り上げられました。(出席：49人-教員40人+その他9人)

第2の講演は、「学び中心の教授：北米の高等教育における教授法」と題して、50名(教員41名、その他9名)の参加を得て行われました。この講演では、カワード博士は、学習の認知に関わる原則、「学習者中心の教室」の概念について取り上げました。講演のねらいは、氏の最後のまとめ「最善の学習は、参加者が活発に関わる状況において実現される」という言葉に集約されました。

2つの講演とも大変興味深く、参加者からもこれまでの行事を越える肯定的なフィードバックを得ることができました。全ての参加者は、新しい知識を得ようと、意欲的に参加しているようでした。

午後の部は、参加者がより積極的に関わるワークショップ形式で行われました。テーマは、「能動的学習が起こる教室環境の促進」です。カワード博士は、「能動的な学習」を定義、焦点化した後に、学部教育において良い実践を行うための7原則を展開しました。これまでの研究について議論するとともに、多様な状況においてどのように教員として対応するべきなのかについての助言が行われました。午後の部は、参加者の積極的な参与により活発に展開され、大変価値のあるものとなりました。



# 留学生 秋の宿泊研修報告 (道東・知床世界遺産見学)



平成22年10月16日(土)～10月17日(日)、外国人留学生と日中異文化研究サークルの学生、引率教職員の総勢五十六名が道東、知床世界遺産見学の宿泊研修を行いました。

初日は、ひたすら道東のオホーツク海に向って走り、貸切バスの車窓から、黄葉や野生の鹿を楽しみながらオホーツク北浜駅、能取岬を目指しました。途中、丸瀬布道の駅に隣接した自然公園で弁当を広げ、深まり行く秋の森林景観の中で昼食を楽しむことができました。

網走市に入り、北浜駅、能取岬まで来ると断崖からの雄大なオホーツク海と知床半島の連山に圧倒され、時間の経つのも忘れカメラのシャッターを押していました。宿泊施設の道立常呂少年自然の家に着いたときはすっかり陽が沈み、少年

自然の家の前に広がるサロマ湖に沈む夕陽を眺めることはできず残念でした。

宿泊施設でのルールやマナーについて担当者から説明を受け、各班長の指示のもとに団体生活を体験しました。夕食後は体育館で卓球、バスケ、インディアカナなどのスポーツで思いっきり汗を流し、日頃のストレスを発散させていました。

汗を流した後は皆で大浴場に入り、裸同士での楽しい日中会話が弾みました。翌日は6時起床、身辺整理、寝具の片付け、部屋掃除、トイレや洗面所清掃などを皆で協力して行いました。公共施設ではいつも次に利用する人達のことを考え「来たときよりも美しく」のこ とばを実践しました。

二日目は斜里教会を經由し、ウトロ知床世界遺産センターを見学しました。こ







のセンターでは知床に生息する動植物について学習したり、大自然の四季を映像で見学することができます。

今回、このセンターから歩いて一分のところの自然の川岸で、たまたま鮭の遡上を直接見学することができました。皆感激していました。

知床五湖展望台は自然に配慮した木製高架式の遊歩道を散策することができま

す。原生林に囲まれてたたくむ幻想的な湖面に、周りの樹林や知床連山を写しながら静寂を保っているその姿は、まさに原始の中の楽園にふさわしく、数多くの植物、動物たちを目にすることができます。この日も親子と考える鹿三頭が遊歩道の橋脚元で遊んでいました。ここからは、海、山、湖、原生林、野生動植物が360度の大パノラマとして見

渡せ、まさしく世界遺産にふさわしい地域であることを実感させられました。

今回、宿泊研修としてこのコースを計画した背景として、中国で封切られた映画のロケ地として採用された人気があることもありましたが、やはり日本が世界に向けて発信している地球環境の大切さ、自然のすばらしさを体験してもらうことを主体に計画しました。そして、高速道路通行料金の無料化も追い風になりました。

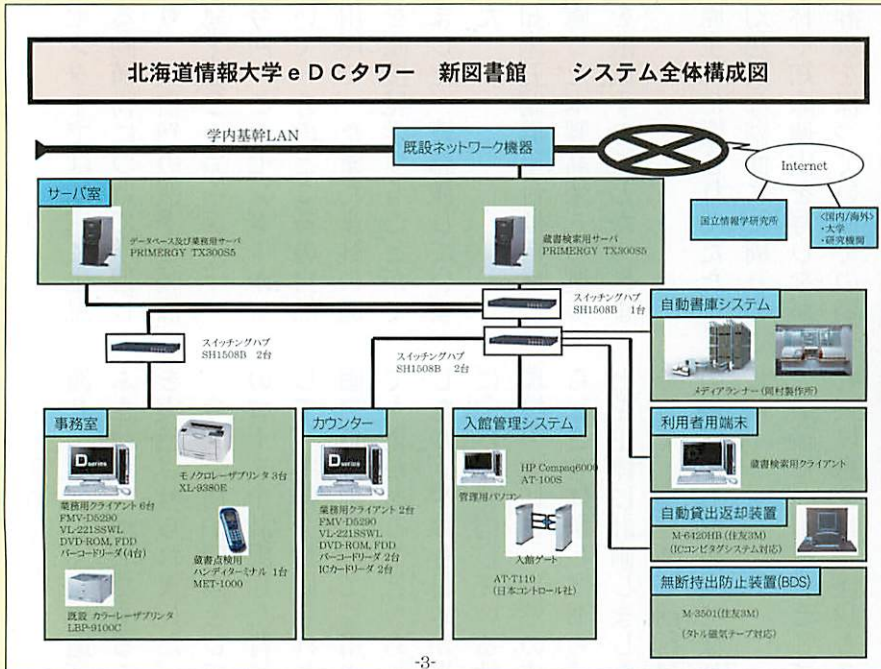
最後に、引率者としては好天に恵まれ、怪我もなく無事に充実した宿泊研修を実施することができほっとしています。今回の外国人留学生宿泊研修を実施する上でお世話になった外国人留学生委員会の皆様、関係者の皆様に感謝します。(国際交流・留学生支援事務室)



## ●図書館情報システム、入館管理システムを更新しました。

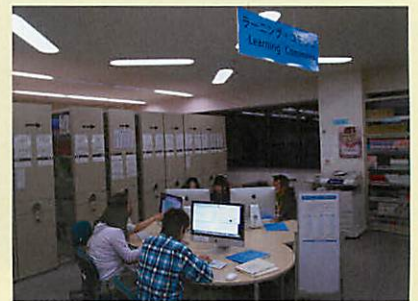
平成22年10月1日、旧図書館システムの保守体制終了に伴い、図書館情報システムを富士通㈱「iLiswave-J.v.2」に更新しました。併せて、図書館入館管理システム(日本コントロール㈱「Active Through Gate AT-T110il」)を導入し、図書館情報システムとデータ連携した正確な利用者認証が可能な入館セキュリティシステムが整備されました。

新しい図書館情報システムは、オンラインによる文献複写依頼や購入依頼を可能にし、携帯電話から本学の蔵書検索、図書館情報等が利用可能となるなど高度情報化社会に相応しい最新の機能を有しており、今後の多様なサービスを可能にしています。新入館管理システムでは、学年別、学科別学生の時系列入館統計の採取が可能となり、今後の図書館運営に役立つものと思われまます。



## ●「ラーニング・コモンズ」の試験運用を開始しました。

ラーニング・コモンズとは、学生の自学自習支援のため、少人数で共同討議や情報交換をしながら課題解決能力高めるための情報機器類を整備した新しい学習の場を指します。この度、図書館では田嶋記念大学図書館振興財団助成金を受けラーニング・コモンズの試験運用を開始しました。閲覧室には、様々なタイプの協調学習にレイアウト可能なネ스팅テーブルと4台のブートキャンプによるWindows XPも利用できる4台のiMacを新たに整備し、あらかじめ決められた時間帯には「図書館アドバイザー」を配置し、学習ソフトの利用法から文献情報検索など、課題解決、レポート作成の際の疑問・質問を幅広く受け付け、適切なアドバイスが受けられるよう体制を整えました。持続可能な新しい図書館機能として、学生の学習支援に積極的に取り組んでいるところです。



## ●「文献検索講習会」を開催しています。

図書館では、授業科目「ビギナーズ セミナー」の一コマとして、ゼミ担当教員と連携し、「文献検索講習会」を随時開催しています。講習会では、図書館備え付けのノートパソコン30台を使い、蔵書検索(OPAC)の基本的な使い方をはじめ、文献検索講習メニューとして「NDL-OPAC(国立国会図書館蔵書検索・雑誌記事索引)」、「CiNii(サイニー) 論文情報ナビゲータ(NII国立情報学研究所)」、「医中誌Web」、「メディカルオンライン」、「ジャパンナレッジ クラシック」など様々なオンラインデータベースの文献検索演習を実施しています。卒研小論文の作成指導などに有効な講習内容となっておりますので、授業等でのご活用をお待ちしております。



## 私の薦める 1冊の本

このコーナーでは、日頃の勉学や大学生生活を豊かにするため、図書館で読みたい本や読むべき本を発見する手助けとして、本学の教員等による推薦図書をご紹介します。ブックガイドとしてお役立て下さい。

### 『遠野物語 山の人生』

柳田国男 著

岩波書店 2007 岩波文庫

配架場所: 文庫・新書 <請求記号382.122||Y53>

文=立花 峰夫(たちばな みねお)  
(図書館長・経営情報学部教授)



©岩波書店

日本民俗学の創始者柳田國男の「遠野物語」は、陸中(現岩手県)遠野出身の佐々木喜善を介して知り得た、同地方に伝わる昔話や伝承あるいは習俗など119編にまとめたものである。内容は、「天狗」「河童」「山男」「山女」「ザシキワラシ」「オシラサマ」「マヨイガ」「神隠し」など、不思議な出来事や身近にある神や精霊と人間の交渉が多岐にわたって記述されている。

決して明るく楽しい話ばかりではないが、そこには物質的に恵まれた私たち現代人が見失った自然に対する畏敬や畏怖、あるいは自然や目に見えぬものとの豊かな対話がある。この地方の人々が貧しい生活の中にあってもなお豊かな想像力としなやかな生命力をもって生きてきたことが手に取るようにわかる。

桑原武夫が文庫の「解説」で、「何か作品を読んで、その背景になっている土地を自身踏んでみたいような衝動を感じるの、確かに楽しいことの一つである」と述べた上で、「私に近ごろ稀なそうした衝動を与えてくれた喜ばしい読みもの一つ」としてこれを挙げていた。一読すればそのことがすぐ同意されるであろう。

読んで欲しいものはこのほかにもいろいろあるが、特に「月夜の浜辺」「清光館哀史」という二つの文章は是非一度読んで欲しい。この文章に出会うことによって、柳田國男の人となりがわかるとともに、柳田の目指したものが何であったか、また文学の始原の姿とはどういうものが自然に了解されるからである。

(「月夜の浜辺」と「清光館哀史」は『柳田国男』(ちくま文庫)で読むことができます。)

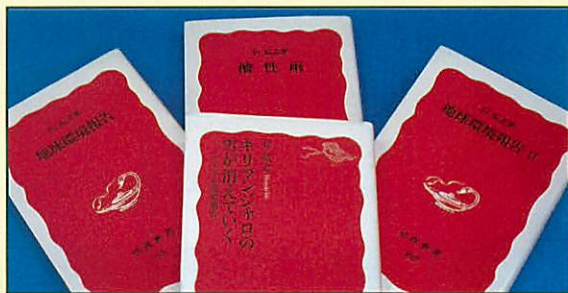
### 『キリマンジャロの雪が消えていく— アフリカ環境報告』

石 弘之 著

岩波書店 2009 岩波新書

配架場所: 文庫・新書 <請求記号519.24||IHY>

文=高野 俊夫(たかの としお)  
(情報メディア学部教授)



©岩波書店

本書のタイトルは、赤道直下にありながら万年雪を頂くアフリカの最高峰キリマンジャロの異変を告げている。

本書の最新データでは、温暖化ガスCO2最低排出量のアフリカが、温暖化の影響を最も受ける可能性が予測されている。また、自然破壊に伴う砂漠化、人口の都市流入に伴うスラム化なども取り上げられている。

著者の石先生は、環境問題の第一人者で、新聞記者、国連顧問、全権大使を経た後、ついこの間まで北大で教鞭を執っていた方である。岩波新書では、本書の他に環境問題を巡る多数の良書を出している。(写真参照)

石先生の著作の特色は、何とんでもアジアはもちろん、アマゾンやアフリカまで自分の足でデータを収集する、(1)ヘミングウェー並みの行動力が背景にあることである。同時にジャーナリストらしい簡潔でわかりやすい文章にあると思う。

筆者の担当する文化人類学では、アフリカのヌーア族やサン(ブッシュマン)が登場するので、とりわけ本書と関係が深い。アフリカの諸民族の生活は大きく自然に依存しているからなのである。

本書が取り上げた様々な問題は、遠く離れた辺境の特異な現象ではなく、現在全地球的規模で生起している現象の一端であることがわかる。

つまり、今年異常気象が顕現した以上、人類揺籃の地における異変を警告と受け止め、生活全般を見直すことと問題解決のための英知を結集することが私たちに求められることになるだろう。

したがって、石先生の一連の著作は、環境問題に初めて警鐘を鳴らした(2)カーソン女史の意思を継承するものといってもよく、ぜひ一読を勧めたいと思う。

注 (1) E. ヘミングウェー(1899-1961) アメリカの作家。『老人と海』『キリマンジャロの雪』など。

(2) レーチェル・カーソン(1907-1964) アメリカの生物学者。『沈黙の春』など。



見年丈治さん



石井拓郎さん



杉澤愛美さん

5月29日	日本情報経営学会 第60回全国大会 (於:北星学園大学)
	見年 丈治 ビジネスプランプログラム 修士課程 2年 「ソーシャル・エンタープライズの特徴に関する研究」
8月28日	教育システム情報学会 第35回全国大会 (於:北海道大学)
	石井 拓郎 メディア制作論プログラム 修士課程 2年 「実践的プロジェクトへの参加機会を拡大するデジタルポートフォリオを活用した人材発掘機能の開発」
	杉澤 愛美 メディア制作論プログラム 修士課程 1年 「Webディレクター育成のためのPBL向けマルチメディアケース教材の開発」
10月2日	情報処理北海道シンポジウム2010 (於:北海道大学)
	石井 拓郎 メディア制作論プログラム 修士課程 2年 「実践的プロジェクトへの参加機会を拡大するデジタルポートフォリオを活用した人材発掘機能の試作」



## 学内報50号の歩み

北海道情報大学学内報「ななかまど」も、今回号で五十号になります。五十号目に当たり、若干、その歩みを振り返ってみたいと思います。

実は、学内報は、現在の前身ともいえるべきものがありません。総務課の有志が担当しカラー紙に印刷したもので、四ページ建てでした。第一号が、平成元年11月10日発行ですが、だいたい二カ月に一回ペースで発行しており、三十九号まで発行されました。最後の号は、平成6年6月22日となっております。第一号の編集後記には、今後の期待を込めて「夢はタブロイド十二ページ、写真入りのカラー版。実現に向けての記念すべき第一歩。がんばろう。」とあります。手作り感があり、読んでいて楽しいものでした。

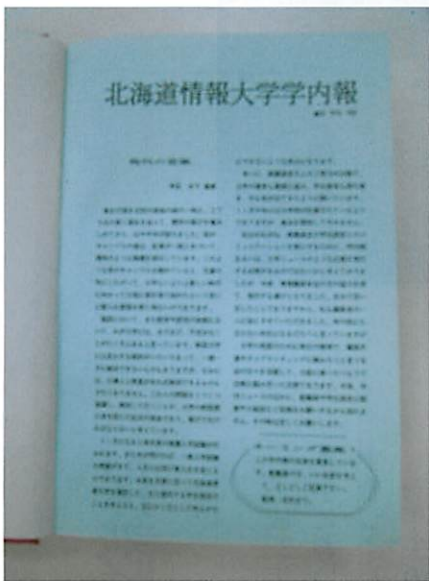
現在は、毎号約三十ページのカラー版ですので、隔世の感があります。ところがこの学内報、この三十九号で突然発行がストップしてしまいました。その後二年ほど休刊しておりました。しかし、大学に学内報がないのは「寂しい」ということだったのか、当時の学長から復刊の話が

あり、編集を担当する係を探したようです。白羽の矢がたったのが、図書室(現図書館)でした。年四回発行でスタートすることになりました。教員三名、図書係二名からなる編集委員会を発足し、学内報の名前、編集計画などを議論いたしました。

その結果、機関誌名を「ななかまど」と決定いたしました。これは、「我が大学の樹」が「ななかまど」であるということで、編集委員の一致した意見で決まりました。(第一号編集後記より)

新学内報第一号は、平成8年6月10日、B5判で再スタート。以来十四年、発行回数は今回で五十回を数えるに至りました。配布先も、最初は、学生・教職員だけでした。しかし現在は、学生の保護者や同窓生にも配布先を拡大しております。発行部数も、当初一千部でしたが、現在は一万一千部を発行するまでになりました。大きな発展といえるかと思いません。いろんな方から「読んでいる」「学校の様子がよくわかる。」などの声が寄せられます。嬉しい限りです。これからも、さらに充実を図っていききたいと思っております。

初代 第一号



初代 学内報の記事



新学内報 第一号表紙





## 保護者との懇談会を実施

平成22年度の保護者と教員との懇談会は、9月25日(土)本学において、一年生及び三年生の保護者を対象として、実施しました。

一年生の保護者懇談会では、長谷川学長からあいさつがあった後、加藤教養部長から教育目標と学生生活について、木田教務課長から教務関係について説明があり、その後各クラス担任教員との個別面談を行いました。また、三年生の保護者懇談会では長谷川学長からあいさつがあり、中村就職部長から学生の就職活動について、長井研究科長から大学院について説明があった後各ゼミ担当教員との個別懇談を行いました。

この懇談会は、保護者の皆様に本学の教育目標や本学が目指す人材育成、教育の実情等を説明し、併せて学生の修学、学生生活等について担当教員と個別に懇談する機会を設けているもので、学生教育、修学支援、学生生活支援において極めて重要な役割を担っていると考えております。

今回出席された保護者の皆様には、学業や学生生活の状況、卒業後の進路・就職活動などについて、熱心に相談等をされており、有意な学生支援に繋がったもの思っております。

ご多忙中にもかかわらず大変多くの方々に、かつ遠方からもご出席していただいたことを感謝いたします。

情報メディア学部  
情報メディア学科

## 新井山ゼミ



ゼミ担当教員の新井山です。まずは青森県出身の四年生、西館君のコメントをどうぞ。

「活動内容に制限が少ないゼミです。Webコンテンツやプログラミングはもちろん、音楽や映像もテーマにできます。ゼミでは毎週PowerPointによる発表と質疑応答を行い、この過程を経て活動内容や成果物の完成度を徐々に高めます。厳しく感じるかもしれませんが、先生からの指摘や改善要求の多くは自力で調べれば解決でき、特段高い障害ではありません。Webコンテンツの作成は初心者だった私も、半年でMS Wordによる制作手法を身につけ、現在はWordによるWebページ作成技法を紹介するコンテンツを制作中です。」

彼以外にも同郷の三年生がおり、過去を遡ると「地方色が豊か」で「専門学校編入生が多い」特徴があります。

「一番の特色は、ゼミ生全員が個々のテーマを自分で定め活動を行っていることです。自分の持ち味を活かしたい人や、他のゼミでは扱わない課題に取り組みたい人にピッタリだと思います。」

活動は個人単位なので、自分のペースで動きたい人にもお奨めです。基本的に毎週のゼミの時間は、進捗状況を報告する場であり、仲間との情報交換だけでなく、自分とは異なる視点と分野の知識に触れる機会は、良い刺激になります。専門学校編入生も多く在籍しており、専門学校での卒業研究を進展させる形での活動も出来ますので、もしも情報大に編入することがあれば、一度研究室を訪れてみてはいかがでしょうか？」

北海道情報専門学校(HCS)から編入の三年生、倉島君からのコメントでした。

## 経営情報学部 システム情報学科 角井ゼミ

角井ゼミのテーマは、経営・経済システム分析であり、第一回入学生について1993年から継続している。現在まで二百八名のゼミ生を送り出した。ゼミの具体的な内容は、次のとおりである。

- 1 情報処理とシステム分析の基礎およびインターネットの利用
- 2 財務諸表分析
- 3 経営比較分析
- 4 財務諸表の作成とシミュレーション
- 5 ③④⑤の利用
- 6 回帰分析
- 7 ミクロ経済およびマクロ経済の分析

ゼミで重要なことは、現代におけるシステムの急速な進歩について理解することである。システム分析は、科学研究と技術開発とビジネスに共通した方法として確立されたが、それは比較的最近のことである。経営情報システムについても、ここ十年の間に著しい革新を遂げている。

現代の特徴は、国際標準化された経営情報システムを数千から数万もの組織が共有して運用すること、すなわち、バーチャルオーガニゼーションの発展である。バーチャルオーガニゼーションが成立する条件として、電子帳票の使用がある。電子帳票の使用によって、四半期ごとの財務諸表の作成・報告が実現された。バーチャルオーガニゼーションにおいては、組織や業種の違いに制約されない派遣や共同研究・技術開発が活発に行われている。ゼミでは、こうした現実の経営・経済の状況についても取り上げている。この場合、インターネットを利用した情報収集が役立つ。

ゼミで使用している主な資料は、総務省「情報通信白書」、「総合月次統計データベース」、「日本統計年鑑」である。



# 『ビギナーズセミナーⅡ』で 松山雄太先輩の話を聞いて

1年A1クラス担任 竹内 典彦



10月18日に、私が受け持つ先端経営学科一年生A1クラスの『ビギナーズセミナーⅡ』の授業の中で、先端経営学科四年生の、松山雄太さんの話を聞きました。松山さんは、昨年度に本学三年生に編入したのですが、たまたま私が受け持つ『ビギナーズセミナーⅡ』のIとIIを受講していて、その活動ぶりもさることながら、プレゼンテーションスキルやコミュニケーション能力の高さに感銘を受けていました。また

来年には「サイバーエージェント」という、東大生や早慶の学生でも難関と言われる、今をときめく「IT企業の雄」に入社することも決まっています。今回、1年生に話をし、とほしい、と持ちかけたところ、快諾を得る

ことができました。当日はパワーポイントを用いて、自身のこれまでと現在行っている活動、そして今後の抱負や夢を、後輩へのメッセージとして語ってくれました。

お話は、子供のときに覚えたプログラミングの話から始まり、起業のこと、学外も含めて様々なイベントやセミナーの運営に関わったこと、社会的活動や経済活動に関わった経験、さらに自身の就職活動をふまえて、「学生時代は、失敗を恐れず、がむしゃらに、とにかく活動すること」と力強く話してくれました。聞いていたA1クラスの学生全員が、「とにかく素晴らしい話だった」と絶賛し、感想を書きつづっています。その中から、何人かの学生の感想を掲載します。

齊藤えりか

簡潔な見やすいスライドで、堂々と長い説明をしていてさすがだと思った。ツイッターを見ても思ったが、失敗からの挫折を乗り越えて、起業や就職活動に取り組む熱意がすごいと思ったし、またそれくらいの気持ちが無ければ大企業に内定を決めるのは難しいことだと感じた。この話を通じて、サークルやバイトの両立でいっぱいはいっぱいの自分を恥ずかしく感じた。同じ人間なのだから完全に無理なことはないと思うので、私も見習って頑張ろうと思った。将来や学校生活について改めて考えるいい機会となった。私は今のところ明確にやりたいことは見つかっていないが、まずなんでもいいから始めてみたいと感じた。

中村 圭貴

「自分でやりたい事をみつけて、例えば休む時間が無





くても自分がやりたい事であるならば、それは楽しいと言える。」単純な表現ですが先輩は凄い人だと思えます。テレビや本でもこのような話はあるし説得力はありますが、このような話を生で聞けるとは思いませんでした。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございます。

#### 有田 雄樹

内容に深みのあるものしかありませんでした。やはり自分の経験を織り交ぜて話すことによって、説得力が増しているように思いました。社長や、副社長、局長を任されるだけの人材であるということは十二分にわかりました。アントレプレナーとして大学一年の時から活動していたこともわかり、これからの松山先輩の動きが気になるところです。挫折しても、また起業するという姿勢が素晴らしいと思えました。スライドには必要最低限のことしか書かれていなくて、写真を張りつけていただけだったので、それを私自身やってみようと思いました。話し方・声の張りが良くて聴きやすかったです。ちゃんと相手の目を見て話していたので、やはりそれが重要だと思いました。話し方や終始笑顔だったことから、やっていることは大変なことなのに、とても充実しているように感じました。

#### 隅田 伸

すばらしい演説を聞けてとても参考になりました。何度でも聞きたくなるような抑揚のある自分の伝記のようなもので、自分もこんな人になりたいと思えた。何度も挫折を経験しながらそれでもやり続けることができる人は必ず成功するとよく言いますが、それを実

際にやっていく人を久しぶりに見て、よい刺激になった。俺もいつか起業したい。まず内容決めなくちゃいけないけど…。一対一で話したいと思った。とにかく熱意がすごくて、自分の生き様を好んでいるのがよく伝わってきた。自信に満ち溢れているのがよくわかった。



#### 鈴木 脩介

話し方がとてもうまくいった。内容は主に経歴を話していたが、飽きることなく聞けた。僕が質問をした際も、ちゃんと目を見て答えてくれ、「教育を変えたい」という大きな夢を答えてくれた。企業から内定をもらっても安心するのではなく新たな夢を抱いていることはずごい。スライドもごちゃごちゃして見やすかったです。紙を見ないで発表していたが、きつと何を話すかは本番直前まで具体的に考えていなかったと思う。それでもうまいと感じた。自信を持たなければいけないと思う発表だった。自信を得るには努力が大切だと思った。

# 執筆部ぶ

その姿を見ていると努力した甲斐があったと感じられました。

また、学校祭では「トリザラス」という焼き鳥の模擬店も主催し、他店に比べ盛況しているようでした。焼き鳥の残りは我々で美味しく頂き、学校祭はとても満足のいく結果となりました。

執筆活動については一度やり過ぎてしまったので、気をつけてあまり部員に縛りのないように行っています。行っている小説講義でも、最初から厳しいことを教えていくのではなく、順番を考えて教えています。努力次第では一年程度でプロットを組み、自由に執筆できる程度になることも可能です。

いまの時代、小説を書く、ではなくとも文章を書くことが非常に多いです。レポート、学校のテストは勿論、報告書や朝礼の挨拶にまで応用が利く部活であると思います。

執筆部は、いずれ誰かプロとして活躍できる人物を育てられればよいと思っています。本当になれるかどうかは努力次第ですが、文章は努力すれば必ず応えてくれます。

小説は非常に美しい文化の一環です、これを読んでいる方がもし小説に興味を持ち、小説を書こうと思ったのなら、執筆部にご連絡をお願いします。

執筆部部长:川村健人 メールアドレス:sampre.goste.de.lilys@softbank.ne.jp

# 執筆部

執筆部はこの夏新しくできたばかりの同好会ですが、作家になりたいという意思の下日々努力をしています。

活動内容は、小説を書くこと、小説を書くための要素（プロット）を共同で作成すること。小説の書き方を講座することなど、小説を書いてみたいとは思ったことはあっても、どうすればいいんだろう？ といった風に思われている方にも判りやすく一から教えていきます。

残念ながらまだ同好会なのでサークル活動場所はありませんが、部室獲得を目指して活動しています。まだ我が校にも名前も知らない人がおられるかもしれませんが、私たちは未来を見据えて頑張っています。

書いているのは小説だけではなく、一般にシナリオと呼べるものについては扱っています。なのでゲーム用に向けてシナリオを書くことや、読書感想文などというものを書くこともあります。文章を書く、という意味では恐らく特化している部活です。

初心者の方は慣れるまで時間を要しますが、経験を積めば次第に面白いものをつくることができるようになります。ファンタジー、シリアス、サスペンス、コメディ、etc…。なにが面白い、という定義は千差万別ですが、その定義をつくるのが、面白いものを生む近道。よきライバルを見つけ、努力することが、成功への近道です。執筆部は、やる気のある人たちに精一杯応えます。

夏休み中には「秋」というテーマで部内に短編小説を公募し、学校祭で展示致しました。あまり自分の作品に自信がなく、参加できない部員もいましたが、提出した部員たちからは、前に出ようとする根気を感じることができました。その他にも、小説の書き方講座、と称したプリントを展示しました。展示会場にお越しくださった方たちは我々の活字をご覧になって頂き、

# 大学主要行事等 <7月21日~12月1日>

## ◆◆ 教職員の動向 ◆◆

### ◇大 学◇

- 《教員》  
9月1日付  
◎採用  
教授 佐藤 浩樹(医療情報学科)

## ◆◆ 主要行事 ◆◆

### ◇法人本部◇

- 10月 7日 理事会・評議員会  
11月24日 永年勤続表彰

### ◇大 学◇

- 7月22日 合同企業説明会・大学説明会  
23日 全学教授会  
24日 教員免許状更新講習認定試験  
29日 名誉教授称号授与式  
31日 前期授業終了  
8月 1日~3日 A〇入学試験  
7日~9日 合同試験  
10日~9月20日 夏期休業  
23日~9月 1日 夏期集中講義  
9月 2日~8日 追再試験期間  
4日~5日 A〇入学試験(C日程)、高大連携特別A〇入学試験  
10日 経営情報学部教授会  
15日 就職講演会  
17日 国際FDエキスパートフォーラム  
17日 情報メディア学部教授会  
21日~22日 スタートアッププログラム  
21日 教育研究評議会  
21日 消防訓練  
22日 モチベーションアップセミナー  
24日 後期授業開講  
24日 全学教授会  
25日 保護者と教員との懇談会  
30日 前期未卒業者 学位記授与  
10月 8日 経営情報学部教授会  
9日~10日 蒼天祭  
15日 情報メディア学部教授会  
16日 編入学試験(1次募集)  
16日~17日 A〇入学試験(D日程)  
18日 教育研究評議会  
21日 海外事情研修報告会  
22日 全学教授会  
11月 2日~ 3日 宇宙と情報フェア2010  
6日 A〇セミナー  
12日 経営情報学部教授会  
15日 教育研究評議会  
19日 情報メディア学部教授会  
20日 教員免許状更新講習認定試験  
26日 全学教授会  
28日 推薦1期入学試験  
◇大学院◇  
8月10日 学位論文等中間報告会(兼北海道情報大学学術奨学生選考会)  
9月18日 大学院入学者選抜試験(1次募集)  
10月21日 学生と教員による研究懇談会  
11月17日 研究科委員会  
◇通信教育部◇  
7月20日~23日 前期IPメディア授業科目試験  
24日~25日 前期印刷・インターネットメディア授業科目試験②  
26日 新潟教育センター 大学見学  
8月 2日~ 7日 夏期スクーリング(1)  
9日~14日 夏期スクーリング(2)  
20日 秋期第1回入学選考  
9月 1日 後期IPメディア授業放映開始  
3日 秋期第2回入学選考  
16日 秋期第3回入学選考  
10月 1日 後期インターネットメディア授業開始  
4日 秋期第4回入学選考  
22日 平成23年度第1回入学選考  
11月 4日 全国教育責任者協議会  
19日 平成23年度第2回入学選考  
20日~21日 後期印刷・インターネットメディア授業科目試験①

## ◆◆ 広報活動 ◆◆

- <進学相談会>  
7月:北海道 2会場(札幌(2))  
8月:北海道 9会場(室蘭、苫小牧、北見、旭川、小樽、函館、札幌、釧路、帯広)

- 青森県 1会場(青森)  
9月:青森県 2会場(青森、八戸)  
11月:北海道12会場(旭川、新札幌(2)、苫小牧、函館、帯広、北見、紋別、釧路、札幌(2)、小樽)  
埼玉県 1会場(さいたま)  
<高校内ガイダンス>  
7月:北海道 1校(中標津高校)  
8月:北海道 2校(帯広三条高校、岩見沢西高校)  
9月:北海道 2校(北星学園大学附属高校、旭川凌雲高校)  
埼玉県 1校(小松原高校)  
千葉県 1校(敬愛学園高校)  
東京都 1校(正則学園高校)  
10月:北海道 5校(千歳北陽高校、北海道栄高校、札幌丘珠高校、富良野高校、札幌大谷高校)  
埼玉県 1校(大宮開成高校)  
東京都 2校(正則学園高校、関東第一高校)  
11月:北海道 8校(苫小牧南高校、旭川明成高校、石狩翔陽高校、恵庭南高校、小樽桜陽高校、札幌龍谷学園高校、札幌拓北高校、室蘭市清水丘高校)  
秋田県 1校(大曲工業高校)  
東京都 3校(関東第一高校、東海大学菅生高校、昭和第一高校)  
神奈川県 1校(横浜清風高校)  
<高校内進路講演会>  
7月:北海道 1校(札幌白陵高校)  
8月:北海道 1校(訓子府高校)  
9月:北海道 3校(滝上高校、えりも高校、札幌北高校(定時制))  
10月:北海道 7校(音更高校(2)、双葉高校、旭川大学高校、小樽桜陽高校、旭川龍谷高校、倶知安高校)  
11月:北海道 4校(野幌高校、別海高校、札幌東豊高校、札幌東商業高校)  
<高校出張講義>  
7月:北海道 1校(釧路明輝高校)  
10月:北海道 2校(枝幸高校、稚内商工高校)  
11月:北海道 5校(北見緑陵高校、札幌厚別高校、札幌西陵高校、札幌南陵高校、江別高校)  
<高校訪問>  
7月:北海道30校、埼玉県1校  
8月:北海道4校、東京都1校  
9月:北海道21校、青森県30校、茨城県2校、埼玉県11校、千葉県3校、東京都15校、神奈川県8校  
10月:北海道56校、岩手県19校、秋田県28校、埼玉県5校、東京都2校、神奈川県1校  
11月:北海道74校、埼玉県3校、千葉県1校、東京都1校  
<オープンキャンパス>  
7月25日・31日 本学  
8月 2日 北見、釧路、函館  
3日 旭川、帯広  
8日・22日・29日 本学  
10月10日 本学  
11月14日 本学  
<A〇入試・奨学金説明会>  
9月12日 本学  
<北海道情報大学通信教育部 入学説明会:本学独自>  
7月:2会場(東京、名古屋)  
8月:8会場(札幌、函館、旭川、帯広、北見、釧路、大阪、鹿児島)  
9月:2会場(本学、東京)  
<北海道情報大学通信教育部 合同入学説明会:私立大学通信教育協会主催>  
8月:2会場(名古屋、大阪)  
9月:3会場(札幌、東京、福岡)

## ◆◆ 主な来学者 ◆◆

### ◇大 学◇

- 11月12日 気象庁気象衛星課 一行  
12日~15日 LWT C(レイク・ワシントン・テクニカルカレッジ)  
シャロン・マクガビック学長  
ミュン・パーク エグゼクティブディレクター 2名

### ◇広報室来学者◇

- 8月 3日 武修館高校(生徒1名)  
11日 北海道栄高校(生徒1名)  
28日 網走南ヶ丘高校(生徒1名)  
9月16日 函館大学付属有斗高校(生徒1名)  
25日 釧路明輝高校(高大連携大学見学:生徒8名、教員1名)  
27日 江別高校(大学見学会:生徒60名)  
27日 奈良朱雀高校(大学見学会:生徒38名、教員3名)  
10月 7日 千歳北陽高校(大学見学会:生徒39名、教員1名)  
8日 札幌創成高校(大学見学会:生徒12名)  
8日 南幌中学校(大学見学会:生徒3名)  
26日 江別第二中学校(大学見学会:生徒5名)  
27日 美唄東中学校(大学見学会:生徒19名)  
28日 江別第三中学校(大学見学会:生徒12名)  
29日 上士幌高校(大学見学会:生徒5名)  
石狩翔陽高校(大学見学会:生徒40名、教員1名)  
11月11日 旭川龍谷高校(大学見学会:生徒23名、教員1名)  
22日 千歳北陽高校(教員1名)

## 編集後記

11月2日、3日「宇宙と情報フェア2010」が本学で盛大に開催されました。詳細は本誌をご覧ください。「はやぶさ」帰還の話題もあったためか、来場者が三千人を超え、小中高生もたくさん来てくれました。未来を担う青少年に、夢を与えることができたかと思うと、これほど喜ばしいことはありません。来賓の方から「本学の学生スタッフ」の対応が素晴らしいとの声も寄せられました。今回で五十号を迎えた「ななか」ですが、これからは様々な情報を発信して参ります。(S)

学内報について、ご意見、ご要望などがございましたらnanakamado@do-johodai.ac.jpまでお寄せ下さい。